

このコーナーでは、この地域に伝わる民話を紹介し、皆さんからの感想画を募集しています。紹介する民話は、子どもたちに、ふるさとの伝説や昔話を教え、少しでも遠い祖先の心や、郷里の土地のぬくもりを感じてほしいと、松浦市教育委員会が平成4年に再編した「松浦の民話」という本から引用した話です。

昔といつても、そうですね、大正の初めのころのことだっと思えます。

わたしの近所に強松さんという人がいました。たいへんな働き者で、朝早くから夜遅くまで、のら仕事に精を出していました。体も頑丈そのものでしたから、近所の人も、

「強松さんな、ほんに働きもんばい。」

松浦の民話⑭

いたちと強松さん

まで来た時です。強松さんの前に、一匹のいたちが飛び出したのです。いたちは強松さんを見ると、驚いて溝の石がぎの穴に飛び込みました。でも、穴をつつるつもりか、ひよいと顔を出しかけたのです。でも、強松さんが立っているのです。また、顔を引っ込めました。しばらくすると、いたちは、もう一度顔を出しました。しかし、まだ強松さんがいるので、また顔を引っ込めます。

強松さんは決心しました。

「やっ、やっ、このいたちばつかまえやろつ。」

強松さんは、持っていたおついでをさつと

と、感心しました。

秋も深まった、ある晴れた日のこと、強松さんは山へまきを取りに出かけました。まきを担うおついでがあまりの棒の両端をそいで、とがらせたものを持ち、腰には、よく研いだなたを差していました。

途中、小さな流れのある溝の近くへ

そばに置くと、顔をなるべく引っ込めて、右手を石がぎの穴にそつと近づけました。間もなく、いたちの顔が出てきました。目をぐるりと回して辺りを警戒しています。でも、強松さんの姿は見えません。

「やっ、やっ、大丈夫。」

と、思ったのでしよう。いたちは、体半分ほど穴から乗り出しました。そのとたん、強松さんの右手は、力いっぱいいたちの胸を押さえつけたのです。驚いたのはいたちです。

「ジャッ、ジャッ。」

悲鳴を上げると、暴れました。強松さんも必死で押さえつけます。そのうち

に、右手がだるくなったので、左手もええよつとして、いたちの首に手をやった時、いたちは死にものぐるいで強松さんの手にかみつきました。

「あつ、痛か。」

と、思わず左手を引っ込めましたが、右手は離しません。左手からは血が吹き出します。でも、かまわず右手でいたちを押さえつけます。どう暴れても逃げられぬと知ったいたちは、強力な武器であるいたちの最後つべを発射したのです。

「プスン、プスン。：プスン。」

音はあまり高くありませんが、いや、そのくさいこと。くさいこと。漁師さんの使うカーバイトを下水の水たまりに投げ込んだら、こんなにおいでもするのでしょつか。強松さんの体の周りには、強烈な悪臭が立ち込めます。

「むん、うん。」

思わず強松さんもつなりだし、目を白黒させました。鼻が、ぎいんと曲がってしまいそうになるのを、我慢し続けるのでした。

やがて、最後つべも終わり、いたちはぐつたりのびで動かなくなりました。

「やったあ。」

強松さんは思わず声を上げて叫びました。ついに勝ったのです。いたちを素手でつかまえたのです。大収穫です。

強松さんが言ったのも無理はありません。このいたちの肉はつまくありません

が、茶褐色をしたすばらしい毛皮は、五十銭（今のお金にして三千円）には売れるでしょう。そうしたら、大好きなお酒も一升買えますし、きせるに詰めて吸つきでみたばこだつて大袋が買えます。

強松さんは、まきを担うおついでも帰らかして、小躍りしながら家の方へと帰って行きました。

みなさんはいたちを見かけても、この歯は絶対にはいけません。いたちの歯は大変鋭く、かまれると指など切れますし、最後つべにでも当たられると気が遠くなることでしょう。それほどくさいのですから。

(志佐町上志佐)



中世の松浦 (30) 鷹島海底遺跡

平成14年度の神崎港改修工事に伴う緊急発掘調査で出土した遺物で、写真左は青玉製の雌雄の鹿像です。高さは3・45寸、幅1・6寸、厚さ1・8寸、重さ18gあります。鹿をモチーフにした置物で、底面は平坦に仕上げられています。部分的に断面円錐形状の小さな穿孔が残されています。素材の数力所に穿孔を施した後に精緻な透かし彫りの加工を行っています。両面にそれぞれ樹下の牡鹿と牝鹿を削りだしています。標高マ

イナス9・9寸の海底から出土しています。写真右は標高マイナス10・9寸の海底から出土している白玉製の獅子像です。高さは3・3寸、幅2・7寸、厚さ1・3寸、重さ16gあります。石材は玉髓と思われず。獅子をモチーフにした置物で、頭部背面に沈線による髭を表現しています。底面は平坦でも中央には「U」字状の溝を掘り込んでいます。

この2点は、壱岐市立一支国博物館で4月22日から6月19日まで開催されている「発掘ながさき至宝展」に貸し出し中です。



▲青玉製の雌雄鹿像



▲白玉製の獅子像

松浦の民話イラスト

読者の皆さんから寄せられたイラストの審査結果を以下の通りお知らせします。

先月の民話「淀姫様」のイラストに、2通の応募がありました。ご応募ありがとうございました。



【最優秀賞】
ペンネーム：前田カメ子さん
(大阪府堺市、34)
「お母様が松浦出身で、『淀姫伝説』は小さい頃に聞いたとのこと。白黒の人物は身も心も疲れた姫で、色が付いた人物は村人の真心に触れた姫をイメージしてあるそうです。すばらしい！の一言に尽きる作品ですね。」 (はま)



【優秀賞】
前田サツキさん (福島・日の浦、70)
「淀姫様をもてなす村人と、そのもてなしに心も体も癒された淀姫様の様子が色使いもきれいに描かれていますね。」 (はま)

■あなたの力作を募集!

— 民話の感想画募集 —

右の民話を読んで感じた情景をイラストにして、必要事項を記入の上左記まで持参、郵送またはメールにて送付してください。応募いただいたイラストは審査をし、上位のものを次の市報で紹介いたします。

【応募資格】住所、年齢、性別など何も問いません。ごなたでも応募できます。

【イラストの規格】はがきまたはA4サイズ以内の紙に絵の具やクレパスなどで書いたカラーのもの(色鉛筆の場合は濃く塗ってください)。

【必要事項】住所、氏名(ふりがな)、電話番号、年齢、職業(学校名)

※掲載する場合、ペンネームを希望する人は、ペンネームもご記入ください。

※はがきで応募される人は、必要事項を表の下部に記載してください。

なお、いただいた個人情報(民話コーナー以外には使用しません)。

【応募締切】5月10日(火)必着

【応募・問合せ先】

〒859-4598 松浦市志佐町里免365番地

松浦市まちづくり推進課 秘書広報係

☎095672-1111 Eメール=hisyo@city.matsura.lg.jp

※福島支所、鷹島支所、そのほかの各支所でも受け付けています。